

## 国際・災害対策委員会 基本方針（案）

国際・災害対策委員会 委員長 船津 和弥

1 昨今、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人と人との密なコミュニケーションが  
2 制限されている中で、国際交流事業において従来の形式を用いた交流を推し進めて行きた  
3 い反面、見直された手段オンラインを使った交流も視野に入れた取り組みもしつつ災害に  
4 おいても、10年前の東日本大震災を始め、熊本や佐賀でも災害が多発している現状があ  
5 り、一般社団法人佐賀青年会議所だけでなく他団体と協力していく必要があります。

6 まずは、諸先輩方が1985年から継続してきた姉妹JCである社團法人台南市新營  
7 國際青年商會との交流が37年目を迎え、新營JCとこれまで以上の繋がりを強固なもの  
8 にするために、佐賀青年会議所一同総力を挙げ、国境を越えた交流の中で、日本の文化や  
9 歴史に触れて頂き、佐賀の観光資源や伝統文化を体験することで、新營JCとのより良い  
10 関係性を創り上げます。そして、新營JCと佐賀青年会議所の交流だけでなく他団体を含  
11 めた交流をするために、合同で交流できる場を提供することで、対外に向けて佐賀青年会  
12 議所のさらなる魅力を発信します。さらに、災害においても被災地の情報や必要とされて  
13 いる物資を迅速かつ効率の良い行動をするために、災害に対する知識や意識を向上させ、  
14 相互理解を深め協働することで、行政だけでなく佐賀青年会議所が率先して他団体と連携  
15 を取りあえる関係性を創ります。

16 混沌とした世界情勢の中で、国際交流を通じ他団体との連携を深めたことで、改めてこ  
17 の地元佐賀の素晴らしさ、人ととの出会いに感謝し、個人の成長につなげるとともに、  
18 現在（いま）を生き抜き次代へつなぐで参ります。

19

20

21 [事業計画]

- 22 1. 新營JC受入れ・会務交流会議の企画・運営（9月）
- 23 2. 裸ん行（大川）参加者への支援（2月）
- 24 3. 例会の企画・運営（3月）
- 25 4. ASPAC（台湾／台中）参加者への支援（6月）
- 26 5. JCI世界会議（南アフリカ／ヨハネスブルク）参加者への支援（11月）
- 27 6. 会員拡大 拡大目標 委員会5名（通年）